

## ノーモア・ヒバクシャ通信 第4号

発行 2012年8月28日

発行者 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会  
〒102-0085 東京都千代田区六番町 15 プラザエ  
フ 6F  
TEL 03-5216-7757 (直通)  
Fax 03-5216-7757 (直通)  
Email [hironaga8689@gmail.com](mailto:hironaga8689@gmail.com)  
郵便振替口座 00170-5-694752  
(口座名義) ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産基金

### (1) NPO法人設立記念集会のご報告

#### 「核時代を生きる～今こそヒバクシャの声を世界に・未来に～」

7月15日(日)午後、東京・有楽町ホールで「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」のNPO法人化を記念する集会が開かれ、10代から80代まで幅広い年代の方々が、350名を超えて参加しました。その概要を報告します。

開会宣言のあと、代表理事の岩佐幹三さんが<わたしたちのめざすもの>として、要旨、次のように呼びかけました。

「ノーモア・ヒバクシャは、被爆者の命をかけた叫び。その願いを会の基本精神とし、世界の人々の共有しうる記憶遺産にしていこう。」「そのために、一つは、原爆被害の全体像や被爆者の体験、とりわけ世界にたった一つの被爆者運動を未来に伝える記録や資料・情報を収集、整理し、その活用・普及を。二つには、原爆体験と被爆者の願いを、自分と離れた過去のことではなく、<想像力><共感力>をもって自らの問題として継承してほしい。」

次に、新劇人会議による被爆証言の朗読、首都大学東京の渡辺英徳教室のヒロシマ・ナガサキ・アーカイブの制作・上映、埼玉の被爆体験聞き書き行動、高校生の平和ゼミナールなど、さまざまに継承する活動に取り組んでいるグループの報告が続きました。

続いて、小糸千尋さん(大学生協連)、中澤正夫さん(精神科医)がコーディネーターとなって、パネルディスカッションが行われました。パネリストは3人で、齋藤紀さん(福島市、わたり病院医師、元広島市の福島生協病院長)、木戸季市さん(日本被団協事務局次長)、香山リカさん(精神科医)。

まず冒頭に、パネリストがそれぞれ発言。

(齋藤さん)「行政の不誠実な対応と様々な和解の引き延ばしのなか、昨年12月の野田総理による事故収束宣言と今年1月の18歳以下の医療費無料化要求への拒否回答が、大飯再稼働へとつながった。現時点の特徴である「再稼働と復興の停滞」は、被爆者たちの半世紀にわたる苦難とたたかいに重なる。原発を導入し、不安をもたらした社会的構造を理解したと

きに、不安とたたかう土台がすわるだろう」

(木戸さん)「5歳で被爆した自分の記憶は限られている。私は三度被爆したと言っている。第一は「あの日」、救済の手も差し伸べられず、何が起こったか分からなかった。第二は占領後、「アサヒグラフ」で被爆の実相が伝えられたとき、自分が被爆者だと認識した。岐阜県の被爆者の会の再開に立ち会い、被爆者運動に参加するようになったのが三度目の被爆。若い被爆者だからこそ、先輩の被爆者から学び伝える役割がある。組織の統一を守り、ふたたび被爆者をつくるなど国際世論と国の施策を動かしてきた被爆者の運動は、この社会で人としてどう生きるかを真剣に考える人たちを勇気づけるのではないか」

(香山リカさん)「3.11後、原発からの脱却を誓ったはずなのに、人間はなんて忘却しやすい生きものなのかと思う。政府は今日からのタウンミーティングで2030年のエネルギー政策について三択で意見を問い、8月末には回答を出すというが、人を馬鹿にしている。人には嫌なことを忘れる心のメカニズムがあるが、忘れてはならないこともある。本当の解決は、それに直面し受け入れること。謝罪し必要な責任をとることによって、新しい一歩を踏み出すことができる。広島・長崎で大変なダメージを受け、いまフクシマを体験した私たちだからこそできることを世界に発信し、生まれ変わって世界への貢献ができれば、若い人たちのよりどころ、自信にもつながるだろう」

さらに討論のなかで、継承活動をすすめていくうえでの大切な点が明らかにされました。

(香山さん)「経済合理主義が最優先される状況のなか、軍需産業の思惑で核を使う戦争が起きてしまう危険性も否定できない。それに対抗するためには、広島・長崎で起こった人間の過ちを実体験に基づき伝えること。それは効率の悪い、気の遠くなるような作業だが、それこそが誤った考え方に対抗する唯一の手段だ」

(木戸さん)「被爆者には、いつまで伝えられるか、もう時間がない。切羽詰まった思いがしている。継承とは、言わば課題の継承ではないか。人類を滅ぼさず存続させていくために、みなさんとともに考えていきたい」

(齋藤さん)「被爆者にとっては、8・6、8・9のあの一点が始まりだが、被爆者それぞれは、そこから齢を重ね、理解を深めてきた。原爆体験とは、数十万の人たちの、それぞれに異なる膨大なもの。極めて多様な記憶遺産を、つまらないものにしてしまわないたたかいが必要だ」

また、参加者135名からアンケートを寄せていただきました。1)「集会をどこから知ったか」、所属団体と友人・知人からが7割近くを占め、〈ホームページから〉が5%、〈報道を通じて〉が6%は、今後の広報・宣伝活動を組み立てていくうえで注目すべき点です。2)「継承する会の活動について」、〈よく知っている〉は4人に1人、4割強が〈もっと詳しく知りたい〉と回答。〈会員ではないが加入を検討してみたい〉と4割近い方から回答が寄せられ

たことは、会の活動への期待の表われであり、会の存在と意義を広く知らせていけば、さらに大きく広げていける可能性を示していると言えそうです。3)「継承の課題の大切さ」、●<大切なことは、今日のテーマである「継承する」ということだと思ふ。今日の内容も参加者だけのものにするのではなく、動画で配信する等して、広げていくことが大切であると思ひます。(44歳・男)>、●<日本の平和を守るためにはぜひとも被爆者の声(被爆体験)を広く語り継がなければならない。そして世界へ広めることで平和が世界にもたらされることを祈ります。そのためにはこの会が必要です。応援します!!(年齢・性別不詳)>、参加した高校生からは●<むずかしかったですが、先生たちのお話がきけて、とてもいい経験になりました。(18歳・女)>。

大学生協連(30名)、高校生10余名など、従来の被団協の集会には参加してこなかった若い層も目立ったのが今集会の特徴でした。参加した若いみなさんの意見も大切にしながら、これからの会の継承の取り組みを進めていきたいと思ひます。

## (2) 故増岡さんの資料の予備調査報告

故増岡敏和さん(詩人)が遺された資料の予備調査を8月12日、埼玉県所沢市のご自宅を訪ね、頼子夫人のご協力を得て行いました。吉田一人理事よりその報告を寄稿していただきましたので、以下に紹介いたします。

参加者は吉田と島村事務局員。増岡さんと親しかった民医連共済の野口さんに同道していただきました。

増岡敏和さんは広島市出身で、海軍予科練に入隊、広島原爆のときは愛媛県にいました。終戦直後から、占領軍の統制きびしい状況の中、広島で詩人・峠三吉氏らとともに文化活動、被爆者救援活動を展開しました。東京では民医連活動に加わり、また詩人として平和・反核を訴え続けてきました。『ふたたび被爆者をつくるな—日本被団協50年史』(あけび書房・2009年)には編集委員としてとして尽力、主として日本被団協結成以前の「前史」部分の執筆を担当しました。

増岡さんの書斎・書庫は見事に分類・整理されていて、関係資料を見つけるのも容易でした。高名な作家・詩人からの手紙などもしっかりした保存状態で保管されていました。

被爆者運動関係資料では、『日本被団協50年史』を執筆したときのメモ、改稿原稿、関連資料のファイル、「広島原爆古資料」と表記された袋、被爆者問題関係の新聞連載切り抜き、福田須磨子『原子野』、小倉豊文『広島原爆の手記』(『絶後の記録』)など被爆体験記の初版本、被爆者運動の草分けとなった「原爆一号」吉川清氏の著書など貴重な資料・書籍が保存されていました。

これらの書籍・資料は日を改めて「ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」にご寄

贈いただくことを、頼子夫人ご承諾いただきました。

### (3) 資料準備室の場所を確保しました

資料収集の開始状況については縷々お知らせしてきましたが、ようやく保存・整理のための場所を暫定的に確保しました。会の趣旨に賛同された方所有のアパートの一室を借りることになりました。場所は、東京都阿佐ヶ谷にある「フラットむさしの」で、広さは6畳及び6.5畳の1DKです。会の負担で、資料保存のための床の造作をしたうえで使用することになります。

当面（、2年間程度）はここで被爆者運動関連資料の整理の作業をすすめながら、資料収集・整理・分類方針の具体化を急ぎますが、「資料センター」の本格的な場所確保も引き続き追求していきます。みなさまのご協力を切にお願いいたします。

### (4) NHKの首都圏ネットワークで会の活動が放送されました

8月14日（火）の首都圏ネットワークで「記憶遺産を継承する会」についてのレポートが放送されました。NHKの番組ホームページに記事としてアップされましたので番組をご覧になれなかった方は、そちらをご参照ください（内容はほぼ同じです）。

<http://www.nhk.or.jp/shutoken/net/report/20120814.html>

### (5) 広報ボランティアの打ち合わせを行いました

7/15の集会に向けて会のHPを開設しましたが、当日回収のアンケートでは「ホームページから」参加した方が5%いらっしゃいました。HPの開設から当日までの短い期間でしたが、「新聞報道を通じて」が6%ですから、webサイトを使っての広報の大切さを改めて感じました。会の取り組みを広げるためにも、今後のHPの運営・管理や会報（「通信」）の編集・発行など、会員のみなさんにご参加・ご協力いただいて、もっと充実した「読みたくなる」ものにしていきたいと考えています。

8月26日（日）に、そのための第1回の打ち合わせを会の事務所があるプラザエフ5Fの会議室で行いました。初めての集まりなので、会の目指すことや取り組みの現状についての報告し、それを受けて広報について基本的な考え方を共有しました。

次回は日時 9月22日（土）14:00～16:00にプラザエフ5F会議室で打ち合わせを予定しています。

参加される方は会事務局間までメールまたはお電話でお知らせください。

### (6) 「原爆資料の現状と課題（仮）」学習懇談会の予定

長年、広島大学で原爆文献資料の収集に当たられた宇吹暁先生をお招きして、原爆文献資料の現状と会に期待することをお聞きして、会が設立を目指す資料センターはどのような役割を果たしていくのかについて考える学習懇談会を企画しています。

参加される方は会事務局間までメールまたはお電話でお知らせください。

日時（案）：10/20（土）13：30～16：30

場所（案）：プラザエフ5F会議室

## （7）ML登録のおさそい

会では会員相互の意見交流や各地での取り組みについて交流するメーリングリストを開設しています。入会時にメールアドレスをお知らせいただいたみなさんには事務局から順次、メールにてメーリングリストへの招待状をお送りしています。メーリングリストへの登録を希望されるみなさんは、お手数ですがアドレスを、この通信の題字右側にある会のメールアドレスまでお知らせください。みなさまの登録をお待ちしております。

## （8）お知らせ

①中国新聞（8月7日6面オピニオン）に直野理事の論説が掲載されました。

②2012年度の会費をまだお振込みいただいていない会員のみさんには振込用紙を同封いたしました。よろしくお願いたします。

以上